

故上人に感謝し奉る

松江市

太田 俊行

元旧制松江高校教授
(現島根大学)

大正十五年、大学卒業を目前に控えて、私は生きる勇氣を失ひました。それ迄は、田中先生の御言葉にも従はなかつた私も、切端迫つて連れられる儘に三月廿四日、知足寺様の三昧会に参りお上人様にお目にかゝりました。(其の時先生は二宮へ用事は無く、わざわざ感謝して居ます。)

私は「本当に如来様はあるのですか。若しあるなら、何故我々は罪を犯すのでせう。もし一元ならば罪惡の生ずる根拠がなひし、二元なら救われる理由がないではありませんか？」と申しますと、上人様は例の指をパシツと弾いて「太田さん、何処で聴へますか？」と仰言ひました。あまりのことに首をひねりますと「お考えになつたつて解りません、頭で考えたのでは解りません、トツクリ事實ありの儘を御覽下さい」と仰言る。頗る短兵急であります。私はハツとして頭が下つてしまいました。

すると上人様は「これがこの音が内に聴へる様にならなければ宗教を論ずる資格はない」と。まことに、未だ見ざる者は速かに看よくです。私を唯物論やマルキシズムから防ひで下さつた上人様の御説法は、実にこの「パシツ」の一弾指の音でありました。そしてそれは天地を貫く音であります。この音は三昧心を養へ、三昧の宝鑰のみ能く仏法の悟りを開くと教へます。三昧心は実に大切であります。一切の宗教は三昧心なくしては成立しませぬ。三昧心なくしては宗教の門に入ることは出来ません。是が私が上人様より承つた要点であります。